

異文化体験記 ©和歌山県職員による「異文化体験記」です。

今回は、濰坊市の伝統工芸であり、伝統文化でもある「凧揚げ（たこあげ）」について、ご紹介します。

濰坊市は、北京、天津、江蘇省南通と並び中国凧の四大産地の一つで、その歴史は一番古く、凧の発祥地とされています。凧の起源は諸説あるようですが、少なくとも春秋戦国時代には存在し、当時は軍事用として信号の伝達などに使用され、その後、貴族から庶民の娯楽へと広まっていったと言われています。明・清時代の濰坊市には、凧作りに従事



する専門職人が生まれ、多くの凧作りの工房や商店が並び、街の至るところに凧が掛かり、全国各地から商人がその凧を買い付けにやって来たそうです。濰坊市内の「楊家埠（ようかふ）村」という地区には、昔の建築物を模した灰色のレンガ造りの建物が立ち並び、凧作りの看板を掲げた商店が多く存在しています。今でも、多くの地元の人や観光客で賑わっていて、その風景から当時の街の賑わいを感じ取ることができます。加えてここには、中国一の規模を誇る凧工場があり、職人たちが手作業で作る凧の生産工程を見学することができます。この凧作りの技術は、中国の無形文化遺産に選ばれています。

濰坊市で作られている凧は、日本の凧とは異なります。形状や色が豊富で身のまわりの物や縁起の良い物など、あらゆる物を凧で表現します。例えば、鷲、金魚、トンボ、蝶、龍、人など多くの種類があります。その他、立体的な形状をした凧もあれば、多くの凧を連結させて作る全長17mの巨大な凧もあります。美しくカラフルに色づけされた様々な種類の凧が大空に揚がる姿は、空飛ぶ芸術品として、中国の人々に愛好されています。



また濰坊市では、1984年から毎年、国際凧揚げ大会が開催されています。今年の4月に行われた第36回大会には、アメリカ、フランス、オーストラリアやブラジルなど65の国と地域の人々約800人が参加していました。私もその大会を見学に行きましたが、40haという広大な芝生の上で、大空を彩る100個以上の凧の姿は壮観でした。また、各国の凧愛好家の人々が創意工夫をして作った様々な凧を楽しそうに揚げる様子を見て、私も凧揚げをして楽しく遊んでいた頃を懐かしく思い出しました。この大会の開催を通じて、濰坊市は「世界の凧の都」として呼ばれるようになったそうです。



凧揚げは、日本ではお正月の遊びですが、濰坊市では、お正月に関わらず、一年を通して街の広場などで凧揚げをしている人を見かけます。凧揚げは、濰坊市の人々にとって伝統的な習俗であるとともに、大好きな遊びの一つです。そして、街の発展と世界各国との文化交流に関する重要な役割を担っています。

〈川口喜寛（2019年4月より山東海峡国際旅行社にて研修中）〉